

令和6年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	やや少	やや少
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	やや少	やや少
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	やや多	やや多
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
たまねぎ	ネギアザミウマ	少	少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	少	少
	アザミウマ類	やや少	やや少
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	コナガ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（7筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.9%、発生圃場率15.7%）。

2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（7筆）の結果、発病葉率は3.2%（3.1%）、発生圃場率は57.1%（38.0%）であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（7筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.1%、発生圃場率1.1%）。

4. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（7筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.2%、発生圃場率6.2%）。

5. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（7筆）の結果、寄生葉率は1.0%（0.6%）、発生圃場率は28.6%（19.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P160～163の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は22.2%（10.7%）であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、果実での発生は認めなかった（過去10年平均 発病果率0.0%、発生圃場率0.8%）。また、葉での発生も認めなかった（発病葉率0.0%、発生圃場率1.0%）。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生葉率は3.4%（1.9%）、発生圃場率は55.6%（42.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、発生初期の防除に努める。

イ タバココナジラミは黄化葉巻病ウイルス（TYLCV）や黄化病ウイルス（ToCV）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているので、薬剤のかけむらがないよう丁寧に散布する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P188～191の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

オ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は22.2%（17.6%）であった。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は0.0%（3.6%）、発生圃場率は6.3%（28.5%）であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（26筆）の結果、葉での発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.4%）。また、果実での発生も認めなかった（発生を認めない）。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.1%、発生圃場率12.2%）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象予報によると向こう1か月の降水量は少ない見込みであるが、気象の推移に注意し、曇雨天が続くことが予想される場合は、施設内の湿度管理と薬剤の予防散布を徹底する。

イ 発病果実は伝染源となるので見つけしだい除去し、圃場外に持ち出し処分する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

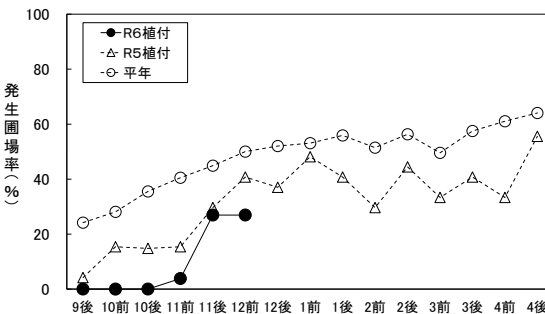
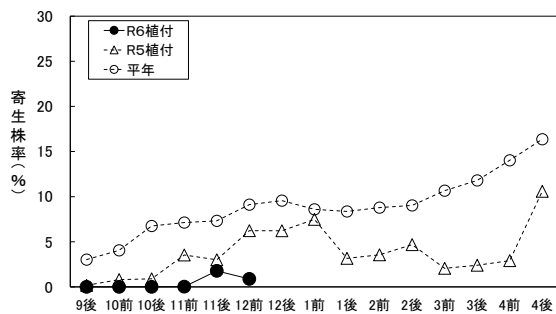
12月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は1.5%（1.1%）、発生圃場率は19.2%（17.2%）であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生葉率は0.9%(9.1%)、発生圃場率は26.9%(50.0%)であった。



(3) 防除上注意すべき事項

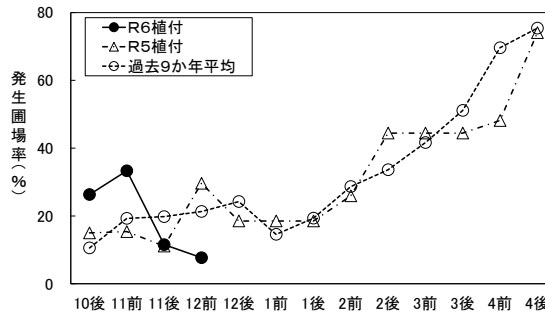
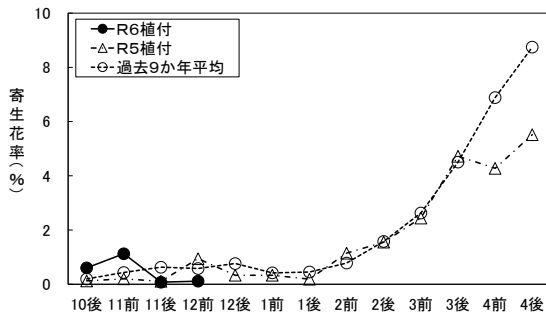
- ア 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、葉液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 除去した茎葉は圃場内に放置せず、すみやかに処理し、圃場内の環境整備に努める。
- ウ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。
- エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和6年長崎県病害虫防除基準P218~221「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生花率は0.1%(過去9か年平均0.6%)、発生圃場率は7.7%(同21.3%)であった。



ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率8.3%)。

2. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.6%(4.9%)、発生圃場率は33.3%(40.9%)であった。

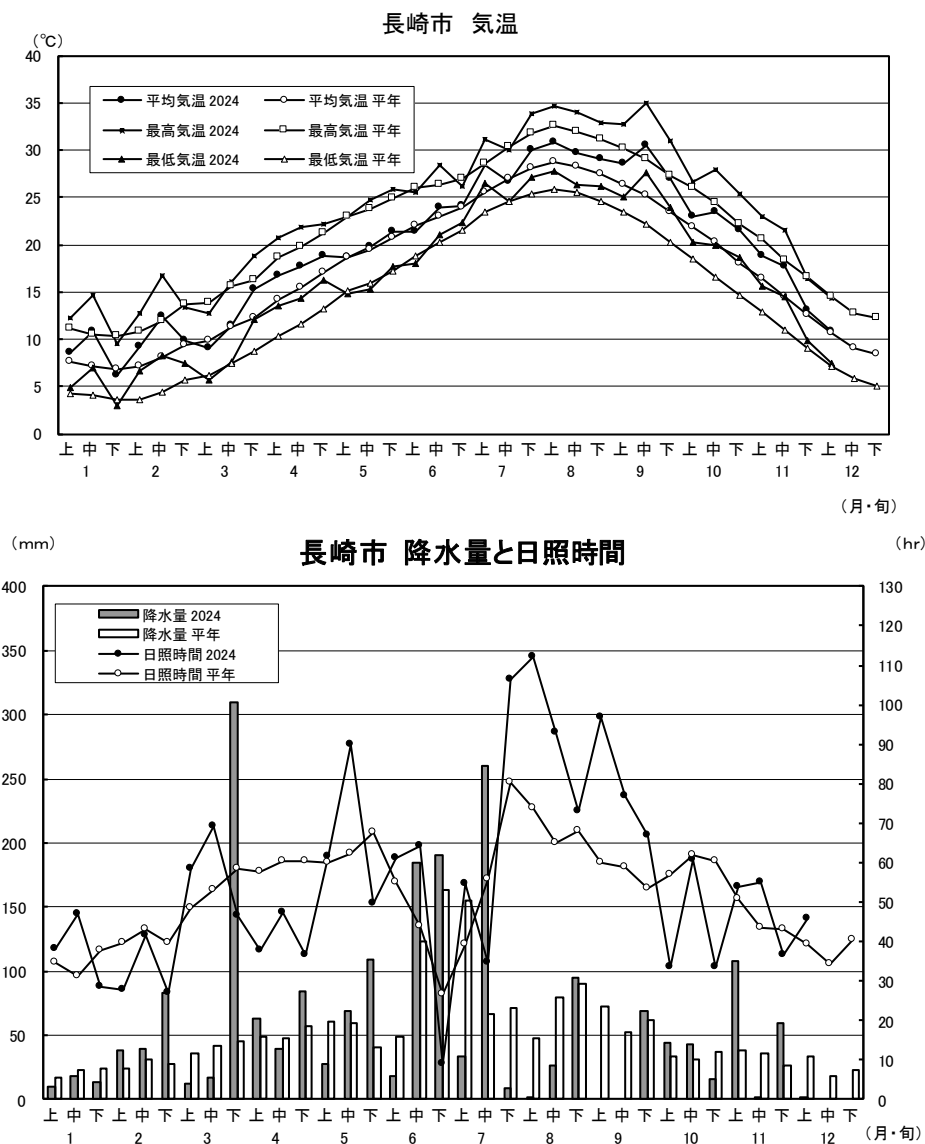
【参考】

(令和6年12月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	40	10
降水量	50	30	20
日照時間	30	30	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和6年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

